

1950年代から2000年代まで一戦後日本を照射する一級の未公開史料

オンライン版

宮澤喜一関係文書

原本：宮澤家所蔵

監修：伊藤 隆（近代日本史料研究会代表／東京大学名誉教授・政策研究大学院大学名誉教授）

解題：浅井良夫（成城大学名誉教授） 楠 綾子（国際日本文化研究センター准教授）



第78代内閣総理大臣をつとめた宮澤喜一（1919～2007）が残した膨大な文書群。1950年代から2000年代まで、宮澤が要職についていた全時代をカバーし、未公開の日記やメモ、外交文書、省庁・党内の政策資料、国内外要人との書簡等、7,000点を超える原資料で構成。戦後日本の実像に迫る一大ドキュメント。

出版・発売元：丸善雄松堂株式会社

「オンライン版 宮澤喜一関係文書」刊行にあたって

近代日本史料研究会代表

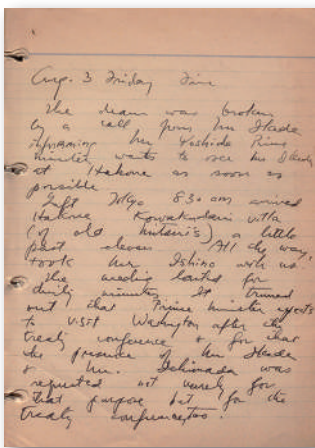
東京大学名誉教授・政策研究大学院大学名誉教授 伊藤 隆

宮澤氏との関係は、私が中心になって「小川平吉関係文書」の整理と主要文書の翻刻（『小川平吉関係文書』1・2、みすず書房、昭和48年）を行った際に、小川家が慰労会をして下さったが、その際に小川の孫に当たる宮澤氏もお出でになって、お礼を言われた事から始まっている。その後も何かとお目にかかる機会があり、平成16年の2月・6月と18年6月にお話しを伺う事が出来た。

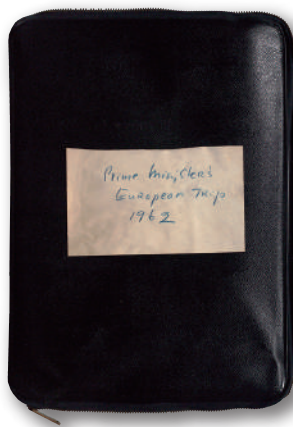
この時に色々話している内に、「小川平吉関係文書」の事に触れ、日本ではアメリカのように大統領記念館（日本では首相記念館）を政府が造ってくれるわけではないのだから、宮澤さんの場合どうなさるお積りかと伺ったところ、どうしたらよいか考えているところだとおっしゃるので、私にお任せ頂けないでしょうかと申し上げた。即座に了解して下さい、事務所の書類庫に案内して下さい、全部持って行って宜しいという事であった。大臣秘書官時代から総理退任後に至るまで、ダンボール100箱近くに及ぶ大量の原史料群で、平成19年度に漸く目録を刊行することが出来るに至った。

あれから十四年余りが経ち、この「宮澤喜一関係文書」がオンライン版として刊行されることとなった。オンライン版刊行を機に、より一層の活用を願ってやまない。

日記



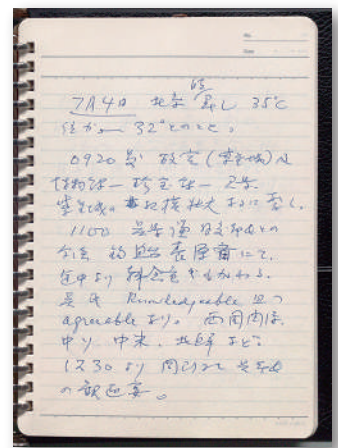
「1951 Peace Conference」



「Prime Minister's European Trip 1962」

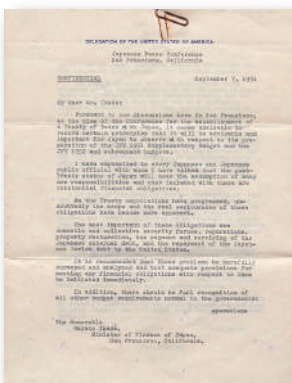


「Miyazawa-Stans Meeting on Textiles 19-27 June '70」

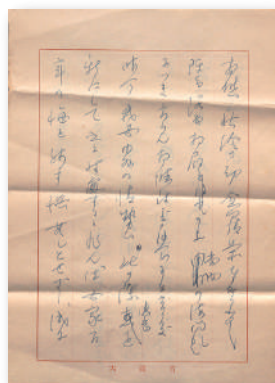


「中国訪問日記」(1984.7)

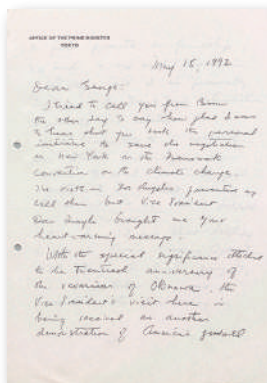
書簡



池田勇人宛 Joseph M. Dodge 書簡 (CONFIDENTIAL) (1951.9.7)



重光葵宛 吉田茂書簡 (1953.9)



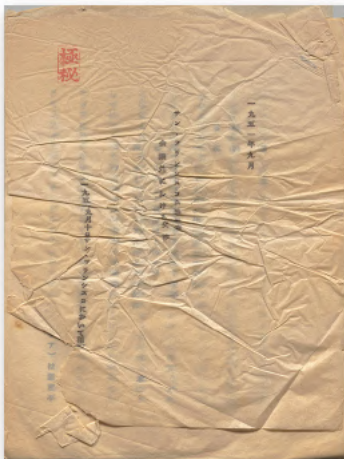
George Bush 宛 宮澤喜一書簡 (1992.5.15)



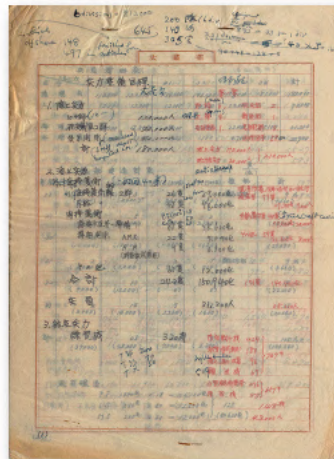
宮澤喜一宛 Bill Clinton 書簡 (1993.4.16)

対日講和

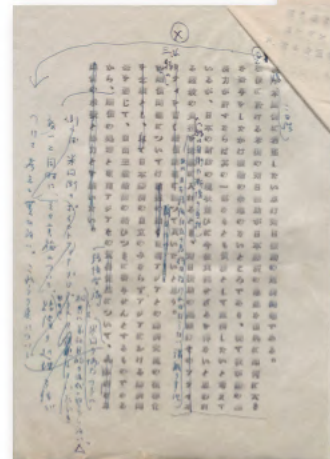
池田・ロバートソン会談



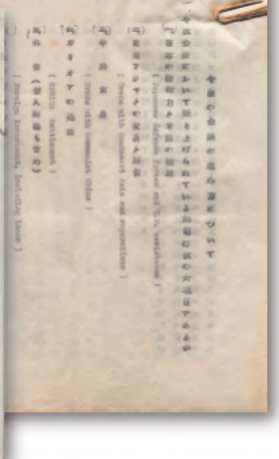
「極秘 サン・フランシスコ会議報告
会議外における交渉」(1951.9.10)



〔兵力整備目標〕

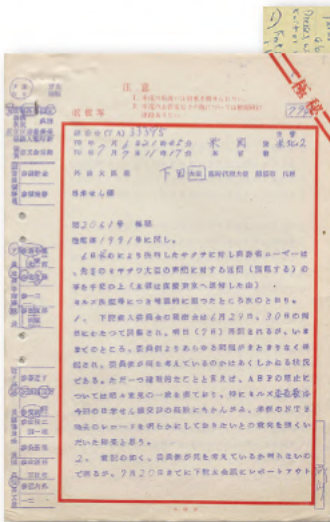


「今後の会談の進め方について」

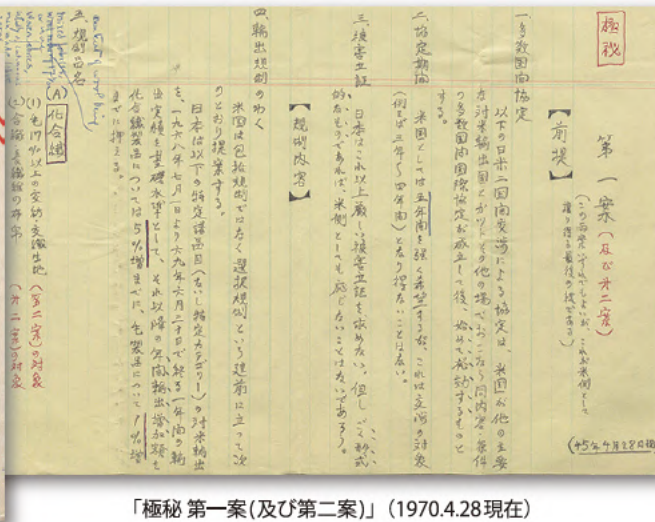


日米繊維交渉

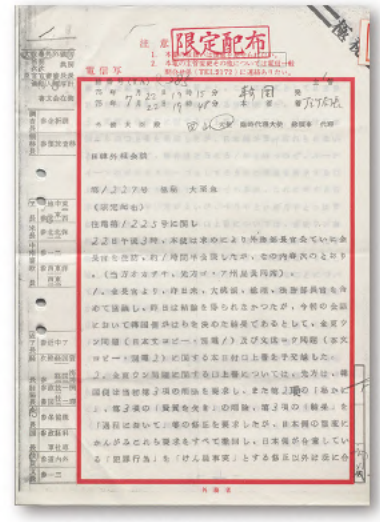
日韓関係



「日米せん維」(1970.7.6)

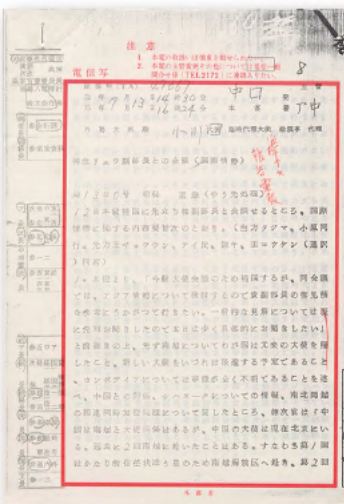


「極秘 第一案(及び第二案)」(1970.4.28現在)

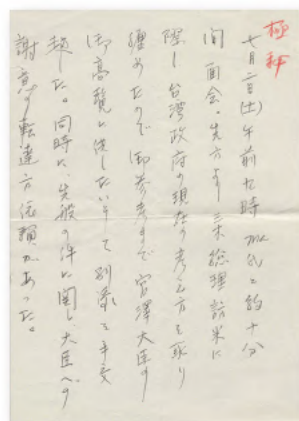


「日韓外相会談」(1975.7.22)

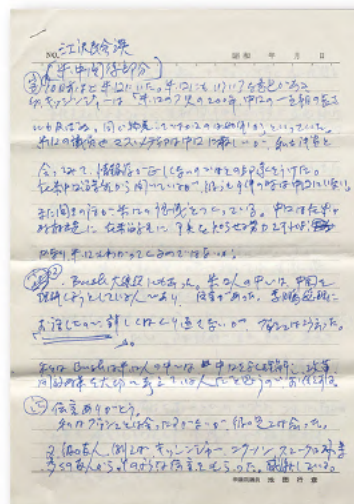
日中関係



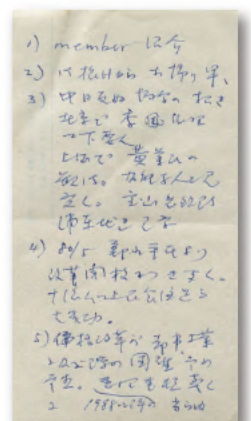
「韓念リユウ副部長との会談(国際情勢)」
(1975.7.13)



「極秘 7月2日 台湾政府との面会メモ」
(1975.7)

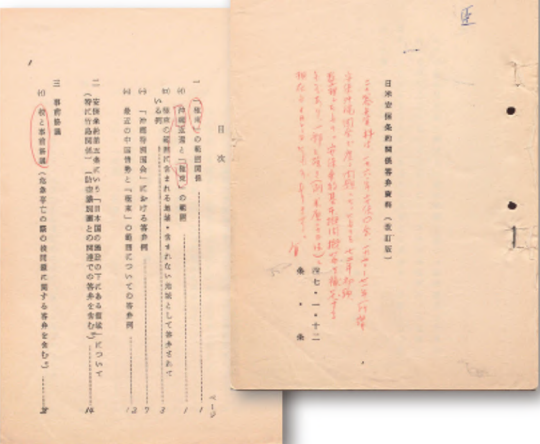


「江沢民会談(米中関係部分)」

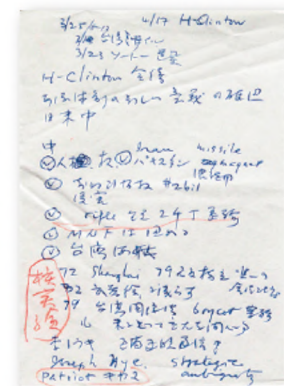


「江沢民総書記会見メモ」
(1990.7.30)

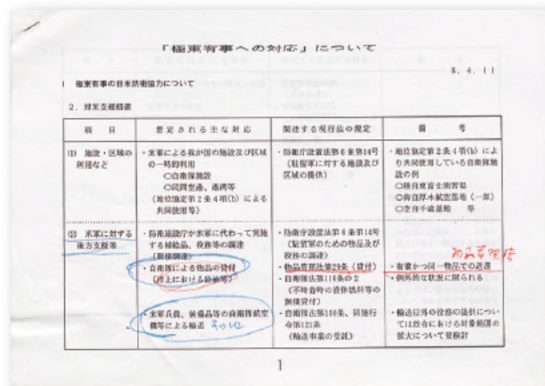
日米安保



「日米安保条約関係答弁資料 (追加分)」(1972.1.12)

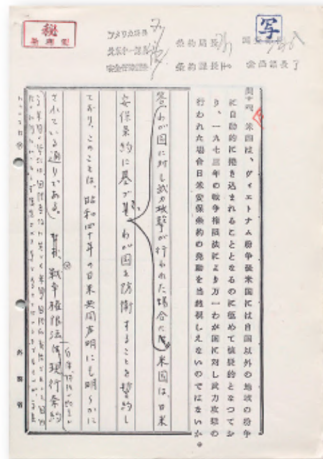


「橋本・クリントン会談用議題メモ」(1996.4.17)



「極東有事への対応」について」(1996.4.11)

核拡散防止条約

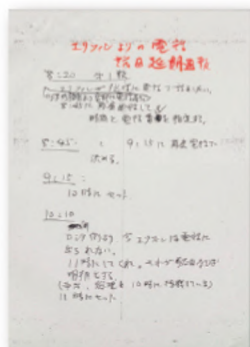


「国際情勢の展望とNPT批准問題」(1975.3)

日露関係

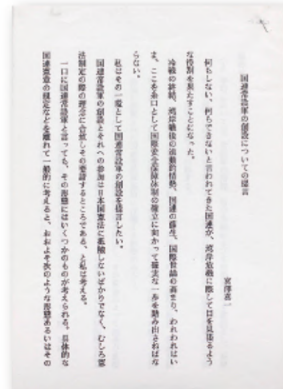


「日ソ外相会談 (第二回) における朝鮮関係討議部分」(1976.1.14)



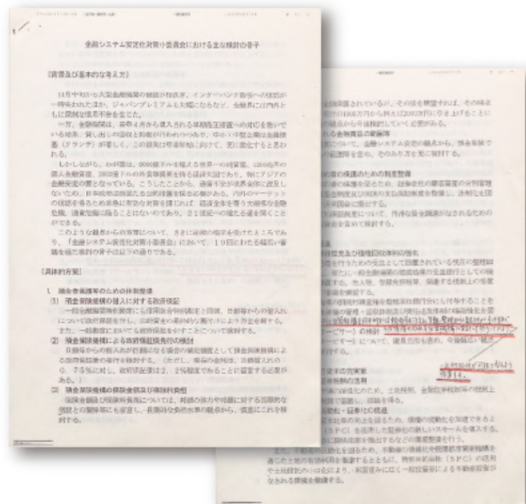
【エリツィンよりの電話 訪日延期通報メモ】

PKO



宮澤喜一「国連常設軍の創設についての提言」

金融危機・バブル処理対策



「金融システム安定化対策小委員会における主な検討の骨子」(1997.12.11)

オンライン版 宮澤喜一関係文書

第78代内閣総理大臣をつとめた宮澤喜一（1919～2007）の旧蔵資料を収録。1950年代から2000年代まで、宮澤が要職についていた全時代をカバー。宮澤は、池田勇人蔵相の秘書官に始まり、経企庁長官、通産大臣、外務大臣、大蔵大臣等の要職を経て、1991年に内閣総理大臣に就任。退陣後も、小渕・森内閣で大蔵大臣・財務大臣を務めるなど、半世紀にわたり政権運営に関わり続けた。本史料群は、宮澤自身が近代日本史料研究会に託し、長年かけて整理されたもので、未公開の日記やメモ、外交文書、省庁・党内資料等の政策資料、国内外の要人との書簡、宮澤が国内外で参加した会議資料等し、7,000点を超える膨大な原資料で構成される一級資料である。

とりわけ外交資料が豊富であり、外務大臣・内閣総理大臣時代のみならず、50年代の対日講和、70年代の日米繊維交渉、90年代以降のサミットや国際会議など、全時代を通じてまとまった資料が残されている。また、バブル後の不況対策やアジア通貨危機対応など、経済政策においても貴重な資料を含み、戦後日本の政治、経済、国際関係分野にて新たな地平を拓く史料群である。

「オンライン総理大臣文書館」の本格稼働

アジア歴史資料センター長

筑波大学名誉教授 波多野 澄雄

よく知られているように、アメリカには、歴代大統領の関係文書を集めた大統領図書館(Presidential Libraries)が存在し、歴代政権の事績を網羅的に知ることができる。しかし、日本には歴代政権の関係資料を集積して保存・公開するような仕組みがなく「総理大臣文書館」も制度としては存在しない。私の経験でも、ある首相経験者のまとめた資料が古書店に高値で陳列されていたことがある。

こうした事情から私がセンター長を務める国立公文書館アジア歴史資料センター（通称、アジア歴）には、歴代の首相・閣僚など政府の要職経験者の関係資料を集めてアジア歴システムを通じて公開してはどうか、という要望が寄せられることがある。

ちなみに、アジア歴は「国が保管する歴史資料」をデジタル化し、インターネットを通じて広く国内外に提供し、近隣諸国との「相互理解」の促進に資することを目的として20年前に設立された。これまで主要3機関（外務省外交史料館、防衛省防衛研究所戦史研究センター、国立公文書館）の所蔵資料のうち、前2機関に限れば、明治初年から終戦までのほぼ全ての資料をデジタル画像によって無償で広く内外のユーザーに提供している。現在は戦後資料の提供にも取り組んでいるが、残念ながらアジア歴は、直接、資料を収集してデジタル化する機能を持ちあわせず、他機関のデジタル化資料（データベース）との「リンク提携方式」によって事業の拡大を期している。

このアジア歴システムのメリットは、文書館に足を運ばなくとも一次資料にアクセスが可能な点、そして3機関の所蔵資料の横断検索が可能な点にある。この二つのメリットを生かしたJ-DACの試みが「近現代史料データベース」の構築である。換言すれば、巨費を要する「総理大臣文書館」を建設するのではなく、「オンライン総理大臣文書館」として歴代首相の関係資料のデータベースを整備すれば、ユーザーの利便性ははるかに大きく、効率的ということである。すでに、「楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）」、「大平正芳関係文書」、「三木武夫関係資料」がオンライン版として提供されているが、さらに「宮澤喜一関係文書」が加わり、これらの文書の横断検索が可能となれば「オンライン総理大臣文書館」は本格的に軌道に乗ることになる。

今回提供される「宮澤喜一関係文書」は、サンフランシスコ講和前から、池田蔵相の秘書官を皮切りに、50年以上も保守政治の中核を歩んだ宮澤が遺した記録類である。池田の逝去後も、佐藤内閣の経済企画庁長官、通産相として「経済大国」への道筋をつけ、三木内閣で外相、そして1991年には海部内閣の後を継いで首相となり、冷戦終結後の日本外交のかじ取りをになった。首相退陣後も小渕首相に請われて蔵相（財務相）となっている。7000点を越える「宮澤喜一関係文書」は、歴代保主政権の内部構造を探るに相応しい広がりやと豊饒な内容を備え、「オンライン総理大臣文書館」の一つの柱となりうるであろう。

日本政治史をダイナミックにゆるがす資料

東京大学名誉教授 御厨 貴

宮澤喜一の「関係文書」がオンライン版で世に出るという。これはすばらしい。宮澤が多くの資料を残していることは、彼のオーラル・ヒストリー（『聞き書 宮澤喜一回顧録』岩波書店）を手がけた頃から、わかっていた。宮澤は知の政治家だったから、自らをとりまく資料がいかに大事かをよく知っていた。ただ何事にも斜にかまえる癖があり、オーラル・ヒストリーでは、嫌なものはイヤとばかりに、自ら意図的に語らぬ時代や事象があった。吉田内閣期、三木内閣期、鈴木内閣期等である。だから文書も彼の好みで残されなかったものがあるのではないかと、との不安があった。今回の目録七千点をざっと眺めて「あっぱれ、宮澤さん」と思った。ほぼ網羅的に残っている。今はなき表参道の宮澤邸のどの部屋に残っていたものか、「権力の館」の中でどんな位置をしめていたものか、改めて思いはめぐる。特に外交関係の資料は充実しており、本人の手入れの入った覚書、メモ、公式資料の写など歴史家にとっては垂涎的となろう。あと特徴的なのは、外国人との書翰のやりとりだ。公的私的の双方が、「読んで下さい」とばかりに、目録の中でうごめいている。宮澤のオーラル・ヒストリーの際、事務所の木箱から時折「日記」のようなものを引っ張り出し、細かい要点を確認していた姿を思い出す。経済企画庁長官として「経済白書」のどこに注目したか、数値の誤りをピシヤリと指摘したという。これは宮澤の人物の小ささを語るエピソードとして語られるが、果たしてそうか。実は、真理は細部に宿るを地でいったのではなかったのか。だとすれば、「宮澤喜一関係文書」を読み解く場合、宮澤が細部への拘りから、あえて残したものもあるのではないかと。宮澤の気もちになって読み解いてみると、オーラル・ヒストリーでは追跡しきれなかった、宮澤の政治観や外交観が、そこはかとなく浮かび上がってくるに相違ない。政治家としての宮澤の評価もまた変わってこよう。日本政治をダイナミックにゆるがす資料を、まずはゆっくりと紐解いてみよう。

オンライン版 宮澤喜一関係文書

原本：宮澤家所蔵

監修：伊藤 隆（近代日本史料研究会代表／東京大学名誉教授・政策研究大学院大学名誉教授）

解題：浅井良夫（成城大学名誉教授） 楠 綾子（国際日本文化研究センター准教授）

全五部 価格 ¥2,200,000（税別）

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター

完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>

内容構成 / 分売価格

第一部 大臣秘書官～参議院議員時代（1949～1962）

池田勇人訪米関係史料 対日講和 池田・ロバートソン会談 コロンボ・プラン 池田・ケネディ会談 日米貿易経済合同委員会
価格 ¥400,000（税別）

第二部 経済企画庁長官～通商産業大臣時代（1962～1974）

池田首相訪欧関係史料 日米合同委員会 GATT閣僚会議 日米繊維交渉 オセアニア・東南アジア訪問 石油危機関係 日米関係
価格 ¥450,000（税別）

第三部 外務大臣時代／国際会議関係書類（1974～1979）

外務大臣会談資料 三木首相訪米 日中関係 グロムイコ・ソ連外相訪日 日豪会談 日米安保条約／沖縄返還核拡散防止条約 国会・内奏関係
価格 ¥450,000（税別）

第四部 経済企画庁長官・自民党総務会長・大蔵大臣時代（1977～1990）

中国訪問 米国訪問 日米貿易摩擦 外遊資料 トロント・サミット 日米欧委員会 経済政策資料 宏池会・平河会 宏池会訪中団
価格 ¥450,000（税別）

第五部 内閣総理大臣・大蔵大臣・財務大臣時代／国際会議関係書類（1990～2002）

総理訪問資料 日口首脳会談 PKO 金融危機・バブル処理対策 アジア経済・通貨問題 安全保障 蔵相会議 サンフランシスコ講和50周年
価格 ¥450,000（税別）

*収録内容は予告なく変更の可能性がございます。

好評
発売中

近現代史料データベース 横断検索が可能です

オンライン版 三木武夫関係資料

全四部 価格 ¥2,400,000（税別）

オンライン版 楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）

全二部 価格 ¥800,000（税別）

オンライン版 大平正芳関係文書

価格 ¥400,000（税別）

有沢広巳旧蔵 オンライン版 社会政策・エネルギー政策関係資料集

全二部 価格 ¥900,000（税別）

オンライン版 大来佐武郎関係文書 日記・手帳・ノート1936－1993

価格 ¥400,000（税別）

Ⓜ MARUZEN-YUSHODO 丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル TEL.03-6367-6025 FAX.03-6367-6188 e-mail kenkyushien@maruzen.co.jp